

1 主体性を支える援助と環境の工夫

探求が深まる援助～よく飛ぶ紙飛行機を作ろう～ 5歳児 学校法人水谷学園 北陵幼稚園

風に興味をもった子どもたちが、ビニール袋風船で遊んでいた。次第に「飛ばす」ことに目的を見出した。そこで、保育者が紙飛行機作りも予想し環境を準備した。T児・K児・A児・R児・H児・F児たちが紙飛行機遊びを始めた。

飛ばし方を試す ～保育者も共に試す～



飛行機は目に見えない風で飛ぶよ・・・それは空気のこと」と言い切る。「あと、重さも大事だよ。新聞紙は大きくて柔らかいからだめ！たまに飛ぶこともあるんだよな・・・」と話す。保育者も紙飛行機を折って、本気で飛ばすがあまり飛ばない。

- ・ K児「飛ばし方もあるんだよ。足を前にして手を思いっきり引いて飛ばすよ」
- ・ T児「あっ！まっすぐ飛ばしてごらん。まっすぐにして！」と言う。
- ・ K児「先生 言ったでしょ。足を前に出して手を引いてやってごらん」と言う。

作り方を工夫する～目標がもてる環境作り～



遊戯室にタフロープ（ポリプロピレン製の紐）を付けたことで、紙飛行機遊びに、変化が見られるようになった。

- ・ K児「ビニールテープを切って重さをつけたよ！」
- ・ S児「僕は飛行機が小さいからホチキスで錘をつけるわ」
- ・ F児「僕は羽をつけたい！」と赤い羽をつける。
- ・ G児「私はしっぽをつけた。よく飛ぶよ！」

土手で、実際にブルーインパルスを見る。一層興味を深め、更に自分の飛行機の改良が始まった。もっとスピード感のある飛行機、もっと滞空時間の長い飛行機を目指して遊んだ。

試行錯誤を繰り返す ～探求に寄り添う援助～



- ・ S児・Y児、2つの飛行機を合体させて飛ばそうとする。
- ・ F児、飛行機の前を少し折り曲げてみる。
- ・ S児、それまで飛行機遊びにはやや消極的であったが、インパルスを見てから急速に熱中して遊ぶようになった。外でも飛ばし「先生 紙飛行機は風があると飛ばないよ！なんだろう、風があるとよく飛ぶと思うけど…」と不思議に思い、解決しようとする。軽い・小さいという現実と、風の強さ・弱さ、一様ではない風の吹き方に気付き室内に戻った。必ず飛ぶ飛行機を作ることのできる子どもたちは、紙の質や大きさにこだわり小さい紙で作る、微調整を繰り返し、より滞空時間の長い飛行機へと向かっていった。メモ用紙のような小さい紙で折り、できる限り滞空時間を長くしようと考え始めた。

工夫の成果を知りたい～情報を友達と共有する援助～



- ・ H児「羽の曲げ方が大事だけどな～」と繰り返す。飛ばすたびに羽の調整をする。
- ・ 大きな紙・硬い紙・広告紙のような柔らかい紙ではなく、メモ用紙のような小さい紙をよく使うようになり、滞空時間を競うようになってきた。
- ・ 子どもたちが紙飛行機新聞を作り始める。距離から滞空時間の記録を書いていた。文字が十分に書けない時は、保育者が、子どもの言いたいことをそのまま書くことで子どもの思いを大切にした。

<考察>（遊びが展開した要因と子どもたちの中に何が育っているかを考察する）

紙飛行機に保育者も子どもと本気で競争しお互いに切磋琢磨をしていったことや、子ども一人ひとりが存分に遊べる時間と空間を確保したこと、保育者だけではなく、子どもと一緒に環境を考えたことなどがあげられるのではないかと考える。さまざまな事柄（見て・聞いて・体験して）により学ぶ態度が育っていき、自分のめあてをしっかりとつてきてきたこと。

子どもたちの興味・関心の変化など子どもたちの実態に即して環境を工夫しています。また、子ども自身が選び、試して使える多様な紙や材料、試す空間、時間など、じっくり工夫したり、探求したりできる環境が保障されています。丁寧な子どもの姿の把握が、これらの援助に繋がり「科学する心」が育まれていることが分かります。